

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103730
法人名	社会福祉法人 喜久寿
事業所名	グループホームウェルケアみどろ
所在地	松山市水泥町132番地1
自己評価作成日	平成 25 年 12 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 2 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・個人の意見を聞きながらご本人が心地よく生活ができるよう支援している。 ・職員と入居者の方が、共に生活をしているという意識を持ち、一方的に介護される側にならないようご本人のペースや生活リズムを把握するよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は、理念に掲げてある「家庭的な雰囲気の中」を意識して、ケアを実践している。利用者のプライドを傷つけないよう配慮すること、寄り添い思いを大切にすることなど、基本的な姿勢を大切にして支援している。協力医の往診や訪問看護の体制が整備されており、医療面でも利用者は安心して過ごすことができている。管理者は職員とのコミュニケーションを心がけ信頼関係を深めており、職員同士も良好なチームワークでお互いフォローし合いながら仕事に取り組んでいる。管理者は、利用者のことを考えながら工夫することを大切にして支援しており、手作りの食事を提供したり、レクリエーションに使用する用品を手作りしたりするよう努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームウェルケアみどろ

(ユニット名) ストロベリーハウス

記入者(管理者)

氏 名 山本明美

評価完了日 H25 年 12 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「家庭的な温かい雰囲気の中で、人間の尊厳を大切に穏やかに豊かな暮らしを支援します。」と理念のもと、その人らしい生活が出来るよう支援している。	
			(外部評価) 理念は、グループホームの基本的な考えを取り入れ、分かりやすい言葉で開設時に管理者が作成している。管理者と職員は「家庭的」という理念に含まれている言葉どおりに、利用者が家庭的な雰囲気の中で穏やかに安心して生活できることを常に念頭におき、ケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地区行事の参加（秋祭り・地域防災訓練等）をし、常日頃より地域とのつながりを大切にしている。	
			(外部評価) 隣接する民家は少ないが、地域の祭りには獅子舞や子ども達が立ち寄るなど交流をしている。地域の防災訓練に参加し、地域住民と協力体制を築くなど、地域とのつながりを持つよう努めている。区長や民生委員が運営推進会議に参加して地域の行事の情報を得たり、地域に協力を呼びかけてくれたりするなど、ここ数年で地域との交流が増えている。管理者は、これからも地域との関わりを模索しながら、取り組む姿勢が伺える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議においては、日常における車椅子の使用方法や認知症の理解を深めるよう議題に盛り込んだりしている。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、毎回利用者の生活状況などを報告し ている。話し合いの中、意見やアドバイスなどをサービス に生かしてる。	
			(外部評価) 運営推進会議は、利用者、区長、民生委員、市担当者、地 域包括支援センター職員等の参加を得て開催している。会 議では事業所の状況や課題等の報告を行い、参加者と意見 交換をしている。会議を通して勉強会を行うなど内容を工 夫しているが、参加者が少なく議題に悩むこともある。多 方面に会議への参加を呼びかけながら、さらにサービスの 向上につながる会議が開催できるよう取り組む姿勢が伺え る。	参加者に会議の内容や必要性を理解してもらい、参加 の呼びかけを行いながら参加者の固定化がないよう工 夫することを期待したい。多方面からの情報収集や幅 広い意見が会議に取り入れられるよう地域から多様な立 場の参加を得て開催することを望みたい。また、議題 を工夫することで地域住民の参加も得られ、双方向的な 会議となることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 具体的な話し合いの場としては、運営推進会議が主では あるが、ホームの現状報告やサービス内容等など話し合 い、アドバイスを頂いたりしている。	
			(外部評価) 市担当者や地域包括支援センター職員が運営推進会議に参 加しており、利用者の相談をするなど連携を深めている。 市担当者とは、運営報告や相談が気軽にできる良好な関係 を築いている。また、市が開催する研修等にも積極的に参 加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員ひとりひとりが、身体拘束にあたる事例や具体的な ケース等を話し合い理解している。日中は、生活に施錠を 開き自由に行き来できるようにしている。	
			(外部評価) 職員が利用者に寄り添い見守ることで、身体拘束をしない ケアに取り組んでいる。スタッフ会議で話し合いを行い、 職員が身体拘束の正しい理解ができるよう努めている。法 人内研修を開催し、言葉での拘束にも職員全員で意識しな がら適切な対応ができるよう心がけている。日中は玄関の 施錠をせず、音や目配りをして利用者の安全確認をしてい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 日常生活において虐待が見過ごされない様、入浴時の身体チェックや虐待に当たるケースを話し合い理解している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 日頃より成年後見人制度について話合う事は少ないが、将来的に必要な方の把握・親族情報などを理解している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用料金の改定などの重要事項に関しては、書面により捺印・了承を頂いている。また、具体的な質問に関しては随時説明をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付窓口の設置を生かしている。また、面会時等には、ご家族のご要望等に関してサービスに盛り込んだりしている。 (外部評価) 利用者には日々のケアの中で、意見や要望を聞くようにしている。家族には面会時に職員から話しかけて、意見や要望を聞くよう努めている。遠方の家族には、年2回「あおぞら日記」を送付したり、電話等こまめに連絡をとる機会を作っている。家族から厳しい意見が聞かれることもあったが、話し合いを続けながら理解してもらえるようになった。実際に意見や要望を言われる家族は少ないが、出された意見には迅速に対応するよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 全体会議や個人的な話し合いの場を持つことで、職員ひとりひとりが自由に意見や要望が話せれるよう努めている。 (外部評価) 毎月のスタッフ会議で、職員から意見や要望を聞くよう努めている。日頃から職員は管理者に意見や要望を伝えることができ、意見がある場合はその都度対応している。管理者は、常に職員に責任を持ってサービスの質の向上を意識して働くよう伝えている。職員は法人内研修や勉強会などに参加して技術や知識を習得し、より良いサービスが提供できるよう心がけて支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員ひとりひとりが、やりがいや向上心を持ち働けるよう賃金水準を上げたり、職場環境の改善に向けた取り組みを行っている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内の職員研修においては、議題として取り上げてほしい講習内容を提案し、講師を招いてより理解を深めたりしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) グループホーム交流会において、他事業所と交流を図ったり日頃より疑問に感じてる事について話し合ったり理解を深めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の生活ぶりをご本人やご家族の話し合いの中、把握していき、ホームにおいてもコミュニケーションを積極的に取り信頼関係を築ける努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初期のアセスメントにおいて、ご家族の要望を聞きながら関係作りに努めている。また、ご本人の思いを汲み取るよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 日常のモニタリングにおいてその方が、まず必要としているサービスについて検討をするよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ホームにおいて職員と共同生活を共にする意識を持ち、対等な立場を理解し関係作りに努めている。レクリエーションや行事参加、買い物など一緒に行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事への参加を促したり、可能な限り病院受診時の付添をして頂いたり、共に本人を支えていく関係作りに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みのある方が、自由に面会をして頂いたり外出をしたりしている。関係が途絶えないよう支援している。 (外部評価) 近隣の神社に参拝に出かけるなど、利用者の馴染みの場所に出かけられるよう努めている。家族の協力を得て、お墓参りに行くこともある。友人や知人等の訪問があり、職員はいつ来てもいいように伝え、気持ちよく迎え入れをしている。携帯電話で家族等と話す利用者もいる。また、行事はデイサービスの利用者と一緒にも実施することもあり、利用者同士の馴染みの関係を大切にするなど、様々な人とのつながりを大切に支援が行われている。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一緒にお散歩に出かけたり、カルタ取りなどのレクレーションに参加したり利用者同士の関わりを大事に支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 継続的に電話などで話し合ったり、相談を受けたりしながら、近況を話し合っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常の生活ぶりで、ご本人が希望する事や思いを汲み取るよう努めている。なるべく、ご要望に添うよう支援している。 (外部評価) 日々の会話の中で利用者の一人ひとりに向き合いながら、思いや希望を聞き取るように努めている。特に利用者はソファに座って過ごす時や入浴時などのくつろげる時間に思いを話すことが多く、職員はゆっくりと話を聞くことを大切にしている。把握が困難な利用者には、家族等から情報を聞いたり、利用者の表情や動作をくみ取り、思いや意向を把握するよう努めている。新たに知り得た情報は職員全員で共有し、思いに沿った支援ができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居初期において職歴や生活歴その他のサービス利用状況を把握し、ホームでの生活において活かして行けるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ひとりひとりに応じた生活ぶりを把握し、それができるよう支援している。また、一方的な介護ではなく出来る事は積極的にして頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 定期的にケアカンファレンスを行い、現状に即した介護 計画を作成している。また、家族からの要望やご本人から の要望などに耳を傾け計画に盛り込んだりしている。 (外部評価) 利用者や家族の意向を反映して、利用者毎の担当者が原案 を作成し、職員全員で話し合い介護計画を作成している。 毎月モニタリングをして評価を行い、3か月に1回の見直 しをしている。管理者は職員全員の意見を聞き取れるよう ミーティング時の話し合いを大切にし、利用者に合ったよ り良い介護計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) ケア会議において、日々変わる状況を話し合ったり個々 の個別記録に記入して状態の把握に努めている。気づきや 工夫点など話し合っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々にもまれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) ご本人やご家族の意見を聞きいれながら、ニーズに即し て他事業所と話しながら対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 慣れ親しんだ地域の神社に参詣したり、近くのスーパー に買い物に行ったりと地域資源を生かしながら生活できる よう支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 月1回の往診時には、ひとりひとりの病状に合わせた診療 をして頂いている。また、変わった事などお話し状況を説 明している。	
			(外部評価) ほとんどの利用者が、協力医をかかりつけ医としている。 月1回協力医の往診と2週間に1回訪問看護があり、利用 者の健康管理をしている。また、利用者の状態の変化な ど、対応できる医療面での協力体制が整っている。専門医 は家族の協力を得て受診することができ、家族の同行が困 難な場合は職員が対応している。また、家族に受診内容等 を報告し、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 週2回の訪問看護ステーションの往診を受けている。個々 の生活状況などをお話し、適切なアドバイスを受けてい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、医師・看護師と連携してサマリーの提供や退 院時のカンファレンスなどの情報共有に努めている。ご家 族とも連絡を密にしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りの件に関してご本人やご家族の意見を反映した り、医師・看護師との連携を深めている。また、運営推進 会議において、地域の方と「看取り」に関する議題を上 げ、理解を深めている。	
			(外部評価) 今までに1度看取り支援の経験がある。入居時に、事業所 として対応できる内容を利用者や家族に説明して同意を得 ている。また、利用者の状況に応じて利用者や家族に説明 を行い、医療機関との連携体制を整え看取り支援を実施し ている。運営推進会議で看取りの話し合いを行ったり、勉 強会のテーマにも取り上げ、職員全員で知識を高め、不安 なくケアが行われるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的な応急手当などの講習会に出席をし、理解を深めている。また、病状の特変時にはかかりつけ医の連絡を密にしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の防災訓練の参加をし、また運営推進会議においても議題に上げ地域の方と連携して取り組めるよう協力体制を深めている。 (外部評価) 年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施している。地域の防災訓練や行事にも参加し、地域住民と顔馴染みとなり協力体制が築けるよう努めている。また、備蓄品等を用意するなど、利用者の安全で安心な生活を守るために災害対策に取り組んでいる。事業所での訓練には、婦人会や消防団などの参加はあるものの十分ではない。	職員だけの避難誘導に限界があることを具体的に確認し、地域住民に訓練への参加を呼びかけ、事業所の災害対策に関する理解を得て協力体制を築いていくことを期待したい。また、運営推進会議等を利用して事業所内部の見学会を開催し、地域住民に様子を知ってもらうなど、身近な関係性を築くことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ひとりひとりのプライバシーを尊重し、言葉がけなどにも十分注意している。入浴時やトイレ時、居室におられる際のノックなど気を遣い対応している。 (外部評価) 利用者の尊厳を損なうことのないよう不快感や羞恥心に気を配り、プライバシーを損ねないさりげない声かけや対応を心がけている。利用者に「待っていて」「早く行って」などの言葉を言わないよう、職員は注意して声かけや対応している。特にトイレ誘導時や入浴時には注意して支援している。管理者は機会がある毎に職員と話し合いを持ち、注意し合っている。また、利用者の名前は、「さん」付けをして呼んでいる。	管理者は自主的に職員が介護等に対して向上心を持てるよう望んでおり、勉強することで知識や技術が身につく、職員一人ひとりの自信につながっていくことを考えている。利用者を年長者として敬意を払い尊厳を重視することや、利用者や家族に思いやりの心を持ち適切な対応ができること、そして何より命を預かることを踏まえ、介護職の育成に力を注ぐことを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご本人の思いや訴えなどに耳を傾け、できるだけ希望に即した対応をしている。日常生活においてコミュニケーションをとり、思いの把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご本人の生活の習慣やペースを把握し、その日にしたいことなどに耳を傾け対応している。個々の生活リズムを大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご本人の趣向にあった服装の把握をし、その季節に応じた服装などを提供をしている。ご自分で好きな服を選んで着て頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ご本人の食べたいメニューを聞いて献立に盛り込んだり、食事の準備の手伝いなどご本人が出来る事をして頂いている。 (外部評価) 利用者の好みを聞きながら職員全員でメニューを作成しており、利用者は週間メニュー表を見ながら食事を楽しみにしている。利用者の健康状態や便秘等に配慮し、調理している。現在は見守りを必要とする利用者が多くなり、職員は利用者と一緒に食事を食べることは少なくなっているが、利用者の横に一緒に座り楽しく安全に食事ができるよう支援している。また、利用者はできることを進んで手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスをいように献立に野菜を豊富に入れたり、工夫している。また水分摂取表において個々に合わせた一日の水分を把握している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアの実施をしている。入れ歯の洗浄や消毒などを行っている。口腔内に残っている残り物の除去などに注意を払っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表においてひとりひとりの排泄パターンの把握に努めている。トイレで気持ち良く排泄が出来るよう支援している。 (外部評価) 排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄パターンを把握するよう努めている。状態に合わせて、紙パンツやポータブルトイレを使用している利用者もいる。声かけや誘導を行い、できるだけトイレで気持ちよく排泄できるよう支援している。また、便秘の利用者が多く、ヨーグルトなど食べ物にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 野菜を豊富に入れたメニューを取り入れ、便秘予防に取り組んだり、個々に合わせた歩行運動や腹筋運動をしたりしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 概ね3日に1回の入浴ペースだが、順番や曜日などひとりひとりの要望に耳を傾け、柔軟に対応している。 (外部評価) 3日に1回を基本として、入浴することができる。利用者の希望があれば、毎日でも入浴することができるよう支援している。利用者に入浴順の希望を聞いたり、シャンプーやボディソープなど利用者の好みの物を使用するなど、個別の対応ができるよう配慮している。入浴の苦手な利用者には、無理強いせず声かけやタイミングを工夫して、心地よい入浴ができるよう支援している。また、希望者には同性介助もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ご本人が休みたい時間に休んで頂いている。また、訴えない場合など状況に合わせて対応している。また、室温や衣類の調整もしている。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員ひとりひとりが、個々の服薬状況や内容・用途について理解している。個別のファイルに服薬情報を収めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その方が楽しみにしているレクリエーションなどを勧めたりして楽しんで頂いている。外出計画にご本人の要望を盛り込んだりしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日などには、近隣の散歩による気分転換を図ったり、外出行事には普段行けない場所に行ったりと戸外に出かける支援を行っている。	
			(外部評価) 事業所周辺の散歩時には、地域住民と挨拶や会話を交わしたり、買い物に行ったりするなど、日頃から外出できるよう取り組んでいる。近くの喫茶店に出かけくつろいだり、外食したりすることも利用者の楽しみとなっている。家族の協力も得て外出するなど、少しでも外に出やすい環境づくりに努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご自身で管理できる方に関しては、ご本人の本位に任せている状況である。管理できない方に関しては、一度ご理解のもとお預かりし、ご本人の用途を聞いたりしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙を個人的に書いて送る方もおられたり好きな時に出席されるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室や普段共同生活を送っている共有の場所が心地よく過ごせれるように清掃したり、季節の花や掲示物を飾ったりと工夫している。 (外部評価) フロアの壁には、利用者が作成した似顔絵や貼り絵などが飾ってある。まっすぐ長い廊下は歩行訓練に最適で、利用者はリハビリを兼ねて歩いている。当番表が貼られ、利用者は自分に与えられた役割を生き生きと楽しんでいる。明るいリビングにはソファや加湿器が置かれ、利用者が居心地よく生活できるよう空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 仲の良い方と一緒に共用部のソファでくつろいで頂いたり食事の際のテーブル席にも反映している。レクリエーションと一緒に参加のお声掛けなど孤立しないよう心掛けている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ひとりひとりの居室は、家で使っていた物をそのまま持ってきて頂いたり、馴染みの生活用品など使い慣れたものを使用して頂くようにしている。 (外部評価) 居室はベッド、エアコン、クローゼットが備え付けとなっている。居室には、使い慣れた机やいす、テレビ、ラジオ等が持ち込まれ、その人らしい空間づくりができています。居室への持ち込みの規制はしていないが、シンプルにまとめられ、利用者が居心地よく生活できるよう配慮されている。また、居室の入口には木製の表札が掛けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ひとりひとりの状況に合わせた生活が出来るように支援している。危険物や居住スペースの確保などに注意を払い、安全に生活が出来るよう支援している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103730
法人名	社会福祉法人 喜久寿
事業所名	グループホームウェルケアみどろ
所在地	松山市水泥町132番地1
自己評価作成日	平成 25 年 12 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 2 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご自分のペースを大切に自由にご過ごしていただけるよう支援している。 ・ご自分が楽しみにしている趣味を大切に、続けていけるよう生活面で支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は、理念に掲げてある「家庭的な雰囲気の中」を意識して、ケアを実践している。利用者のプライドを傷つけないよう配慮すること、寄り添い思いを大切にすることなど、基本的な姿勢を大切に支援している。協力医の往診や訪問看護の体制が整備されており、医療面でも利用者は安心して過ごすことができる。管理者は職員とのコミュニケーションを心がけ信頼関係を深めており、職員同士も良好なチームワークでお互いフォローし合いながら仕事に取り組んでいる。管理者は、利用者のことを考えながら工夫することを大切に支援しており、手作りの食事を提供したり、レクリエーションに使用する用品を手作りしたりするよう努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームウェルケアみどろ

(ユニット名) ブルースカイ

記入者(管理者)

氏 名 山本 明美

評価完了日 H25 年 12 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「家庭的な温かい雰囲気の中で、人間の尊厳を大切に穏やかに豊かな暮らしを支援します」と理念のもと一方的な介護される側に立たない様支援している。	
			(外部評価) 理念は、グループホームの基本的な考えを取り入れ、分かりやすい言葉で開設時に管理者が作成している。管理者と職員は「家庭的」という理念に含まれている言葉どおりに、利用者が家庭的な雰囲気の中で穏やかに安心して生活できることを常に念頭におき、ケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事への区長よりお誘いを頂いたり、運営推進会議において地域の情報を聞いたりして関係作りに努めている。	
			(外部評価) 隣接する民家は少ないが、地域の祭りには獅子舞や子ども達が立ち寄るなど交流をしている。地域の防災訓練に参加し、地域住民と協力体制を築くなど、地域とのつながりを持つよう努めている。区長や民生委員が運営推進会議に参加して地域の行事の情報を得たり、地域に協力を呼びかけてくれたりするなど、ここ数年で地域との交流が増えている。管理者は、これからも地域との関わりを模索しながら、取り組む姿勢が伺える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議において地域の方より議題の提案を頂いたり、「認知症の理解」など話し合ったりしている。また、会議を通じて感染症対策など地域に向けて発信している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議においては、毎回ひとりひとりの生活状況や行事の様子などをお話している。また、アドバイスや提案などに耳を傾けて支援に結びつけている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、利用者、区長、民生委員、市担当者、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催している。会議では事業所の状況や課題等の報告を行い、参加者と意見交換をしている。会議を通して勉強会を行うなど内容を工夫しているが、参加者が少なく議題に悩むこともある。多方面に会議への参加を呼びかけながら、さらにサービスの向上につながる会議が開催できるよう取り組む姿勢が伺える。	参加者に会議の内容や必要性を理解してもらい、参加の呼びかけを行いながら参加者の固定化がないよう工夫することを期待したい。多方面からの情報収集や幅広い意見が会議に取り入れられるよう地域から多様な立場の参加を得て開催することを望みたい。また、議題を工夫することで地域住民の参加も得られ、双方向的な会議となることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議においては、事業所の近況情報をお伝えしている。また、それ以外の相談事項に関しては電話対応にて相談に乗って頂いている。	
			(外部評価) 市担当者や地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加しており、利用者の相談をするなど連携を深めている。市担当者とは、運営報告や相談が気軽にできる良好な関係を築いている。また、市が開催する研修等にも積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束にあたる事項についての勉強会を実施し、理解を深めたりしている。夜間などは、防犯上玄関の施錠は行っている。	
			(外部評価) 職員が利用者に寄り添い見守ることで、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スタッフ会議で話し合いを行い、職員が身体拘束の正しい理解ができるよう努めている。法人内研修を開催し、言葉での拘束にも職員全員で意識しながら適切な対応ができるよう心がけている。日中は玄関の施錠をせず、音や目配りをして利用者の安全確認をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待が見過ごされない様、入浴時に入浴担当者がチェックを行ったり、身体状況チェック表において毎日把握している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 後見人を立てている方はおられないが、今後必要となってくる方などご家族と話し合う機会を持ち理解を深めていきたいと思う。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 介護保険改正に関しての料金変更の際は、文書にて同意を頂き、押印して頂いている。契約の際には、疑問に感じた事などは、随時納得して頂くよう対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付相談窓口を設けており、その都度対応している。また、面会時にご家族よりご要望やご意見を聞いたり普段疑問に思っている事を話して頂いたりしている。 (外部評価) 利用者には日々のケアの中で、意見や要望を聞くようにしている。家族には面会時に職員から話しかけて、意見や要望を聞くよう努めている。遠方の家族には、年2回「あおぞら日記」を送付したり、電話等こまめに連絡をとる機会を作っている。家族から厳しい意見が聞かれることもあったが、話し合いを続けながら理解してもらえるようになった。実際に意見や要望を言われる家族は少ないが、出された意見には迅速に対応するよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員の意見や提案などは、会議などにおいて自由に話し合っている。可能な限り反映するようにしている。 (外部評価) 毎月のスタッフ会議で、職員から意見や要望を聞くよう努めている。日頃から職員は管理者に意見や要望を伝えることができ、意見がある場合はその都度対応している。管理者は、常に職員に責任を持ってサービスの質の向上を意識して働くよう伝えている。職員は法人内研修や勉強会などに参加して技術や知識を習得し、より良いサービスが提供できるよう心がけて支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 就業規則や労働環境などを話し合い、個々に応じた労働時間の確保など柔軟に対応している。また、働きやすい環境になるよう職員ひとりひとりが日頃からコミュニケーションを交わしたりしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 経験が浅い職員へは、法人主催や外部主催の講習会に積極的に参加するよう勧めたりしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 包括主催のグループホーム交流会に参加して、顔なじみの職員が増えたり、同業者でしか分らない相談事項などを議題にして理解を深めたりしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人はもちろん、ご家族の意見や意向などにも耳を傾けてご本人が安心して生活ができるよう心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初期において、ホームでの生活に不安を覚えているケ ースが多いのでご本人とコミュニケーションをとりながら、 不安に思っている事など思いを汲み取るように心掛けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 入居時には、本人の支援としているサービスを見極めて ご家族の意見を反映しながら、支援内容に含めたりしたり している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 生活を共にしているという意識を持ち、ご本人に出来る 事に関しては、なるべくして頂くように支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 初期や面会時など、ご本人の居室にて過ごして頂いた り、普段あったことや生活状況など随時話し合ったりして いる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 昔からの友人など定期的に面会を受けている。なるべく その関係が途絶えない様、日頃あったことなど談笑したり 関係作りに努めている。 (外部評価) 近隣の神社に参拝に出かけるなど、利用者の馴染みの場所 に出かけられるよう努めている。家族の協力を得て、お墓 参りに行くこともある。友人や知人等の訪問があり、職員 はいつ来てもいいように伝え、気持ちよく迎え入れをして いる。携帯電話で家族等と話す利用者もいる。また、行事 はデイサービスの利用者と一緒にも実施することもあり、利 用者同士の馴染みの関係を大切にするなど、様々な人との つながりを大切に支援が行われている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が生活を共にするスペースの確保や、食事の際は一緒に頂いたり、行事では共に参加し楽しんだりしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了しても、近隣の方などお会いした場合などは、気兼ねなく相談に応じたり他愛ない会話をしたりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) どのような生活がしたいのかなど、話し合ったり生活していく上で何が必要のかなど本人の要望を聞きながら可能な範囲で対応していくようにしている。	
			(外部評価) 日々の会話の中で利用者の一人ひとりに向き合いながら、思いや希望を聞き取るように努めている。特に利用者はソファに座って過ごす時や入浴時などのくつろげる時間に思いを話すことが多く、職員はゆっくりと話を聞くことを大切にしている。把握が困難な利用者には、家族等から情報を聞いたり、利用者の表情や動作をくみ取り、思いや意向を把握するよう努めている。新たに知り得た情報は職員全員で共有し、思いに沿った支援ができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの生活歴や介護保険サービスの有無などを把握し、入居するまでの経緯を把握するようにしている。またケアプランに反映したりしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の生活リズムを把握して、決して無理をしないよう努めている。身体状態などひとりひとりにあったケアに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 生活していく上での障害を把握し、ご本人の要望も踏まえて支援内容に入れている。また、定期的なモニタリングを行い、変更すべき支援プランの検討などしている。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向を反映して、利用者毎の担当者が原案を作成し、職員全員で話し合い介護計画を作成している。毎月モニタリングをして評価を行い、3か月に1回の見直しをしている。管理者は職員全員の意見を聞き取れるようミーティング時の話し合いを大切に、利用者にあったより良い介護計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 生活において様子が変わっている事やひとりひとりの生活状況の気づきを話し合ったり、日誌や申し送りノートに記載し、ケアプランの見直しの際に役立てている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご家族と話し合い、本人の要望などに耳を傾け既存のサービスに捉われないよう心掛けている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近くのショッピングセンターへ買い物へ行ったり、要望があれば、対応するようにしている。また、本人の状況に合わせて地域資源の活用をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居時には、かかりつけ医の紹介や初期検診には、出来 るだけ一緒に同行し、医師との話し合いや要望を持つ機会 を設けている。 (外部評価) ほとんどの利用者が、協力医をかかりつけ医としている。 月1回協力医の往診と2週間に1回訪問看護があり、利用 者の健康管理をしている。また、利用者の状態の変化な ど、対応できる医療面での協力体制が整っている。専門医 は家族の協力を得て受診することができ、家族の同行が困 難な場合は職員が対応している。また、家族に受診内容等 を報告し、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 週2回の定期的な訪問看護診療を受けているが、それ以外 でも24時間対応にて緊急時に対応して頂いている。日常で 疑問に感じている件など随時話し合っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、生活状況やADLの情報など書面や口頭にて情 報提供している。また、入院先には情報交換など随時連絡 して頂くようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化に伴う終末期の在り方などについて、「看取り」 に関してホームで出来ることを話し合ったりしている。家 族からの要望にも耳を傾けている。 (外部評価) 今までに1度看取り支援の経験がある。入居時に、事業所 として対応できる内容を利用者や家族に説明して同意を得 ている。また、利用者の状況に応じて利用者や家族に説明 を行い、医療機関との連携体制を整え看取り支援を実施し ている。運営推進会議で看取りの話し合いを行ったり、勉 強会のテーマにも取り上げ、職員全員で知識を高め、不安 なくケアが行われるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) すべての職員が研修を受けているわけではないが、法人や地域の講習会の案内などには参加し、A E Dの使用方法・心肺蘇生の方法など理解を深めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 当ホームにおいて起こりうる災害を会議で話し合い、地域の防災訓練に参加したりして、日常より防災の意識を高めている。 (外部評価) 年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施している。地域の防災訓練や行事にも参加し、地域住民と顔馴染みとなり協力体制が築けるよう努めている。また、備蓄品等を用意するなど、利用者の安全で安心な生活を守るために災害対策に取り組んでいる。事業所での訓練には、婦人会や消防団などの参加はあるものの十分ではない。	職員だけの避難誘導に限界があることを具体的に確認し、地域住民に訓練への参加を呼びかけ、事業所の災害対策に関する理解を得て協力体制を築いていくことを期待したい。また、運営推進会議等を利用して事業所内部の見学会を開催し、地域住民に様子を知ってもらうなど、身近な関係性を築くことを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) その人にとって気にかけている事や気分を害するような会話はしないようにしている。また、プライバシーにも注意を払い、言葉がけにも注意している。 (外部評価) 利用者の尊厳を損なうことのないよう不快感や羞恥心に気を配り、プライバシーを損ねないさりげない声かけや対応を心がけている。利用者に「待っていて」「早く行って」などの言葉を言わないよう、職員は注意して声かけや対応している。特にトイレ誘導時や入浴時には注意して支援している。管理者は機会がある毎に職員と話し合いを持ち、注意し合っている。また、利用者の名前は、「さん」付けをして呼んでいる。	管理者は自主的に職員が介護等に対して向上心を持てるよう望んでおり、勉強することで知識や技術が身につく、職員一人ひとりの自信につながっていくことを考えている。利用者を年長者として敬意を払い尊厳を重視することや、利用者や家族に思いやりの心を持ち適切な対応ができること、そして何より命を預かることを踏まえ、介護職の育成に力を注ぐことを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 「こうしたい」「ああしたい」など常日頃から訴えがある方などは、その都度対応している。自己決定が出来ない方などは、生活状況から把握するように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ひとりひとりの生活ペースを把握し、自由に生活できるよう支援している。決して孤立することなく、趣味を楽しんだり、ご本人の意向を聞いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 身だしなみの支援は、整容を中心にしている。好きな服を選んで頂いたり、季節にあった服装を着て頂くよう支援している。口紅を塗ったりおしゃれをしたりしている方もおられる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食前後のテーブル拭きや下膳を手伝って頂いたりしている。食器洗いなどご本人のその日の状況に合わせて無理しない様、対応している。 (外部評価) 利用者の好み聞きながら職員全員でメニューを作成しており、利用者は週間メニュー表を見ながら食事を楽しみにしている。利用者の健康状態や便秘等に配慮し、調理している。現在は見守りを必要とする利用者が多くなり、職員は利用者と一緒に食事を食べることは少なくなっているが、利用者の横に一緒に座り楽しく安全に食事ができるよう支援している。また、利用者はできることを進んで手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分摂取表にひとりひとりが一日必要としている水分量を把握している。また、栄養面ではバランスよく献立を立てるよう工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアにおいて口腔内の清潔に努めている。歯がない方には、専用のマウススポンジを用いて支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表にてひとりひとりの排泄パターンを把握している。なるべくトイレで気持ち良く排泄できるように支援している。訴えのない方は、パターンを職員が把握し誘導を行っている。	
			(外部評価) 排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄パターンを把握するよう努めている。状態に合わせて、紙パンツやポータブルトイレを使用している利用者もいる。声かけや誘導を行い、できるだけトイレで気持ちよく排泄できるよう支援している。また、便秘の利用者が多く、ヨーグルトなど食べ物にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 野菜を豊富に入れたメニューを取り入れたり、おやつ時には飲むヨーグルトを提供し、便秘予防に努めている。日頃からの歩行運動や腹筋運動を取り入れている方もおられる。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ひとりひとりに応じた希望やタイミングで入浴して頂いている。曜日や時間帯などなるべくご本人の希望に即したようにしている。気持ち良く入って頂くよう時間は十分とっている。	
			(外部評価) 3日に1回を基本として、入浴することができる。利用者の希望があれば、毎日でも入浴することができるよう支援している。利用者に入浴順の希望を聞いたり、シャンプーやボディソープなど利用者の好みの物を使用するなど、個別の対応ができるよう配慮している。入浴の苦手な利用者には、無理強いせず声かけやタイミングを工夫して、心地よい入浴ができるよう支援している。また、希望者には同性介助もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 安心して休息して頂けるよう、状況に応じて対応している。休息したい時間など把握し確保するようにしている。	
			(外部評価)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬状況の把握は、服薬チェック表にて行っている。また、服薬が変更された方などは申し送りで把握している。症状の変化などは、適時医師と相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ひとりひとりの趣味や出来ること、好きなことを把握し、それができる時間の確保をしている。張り合いが持てるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 友人や家族が面会された時は、自由に戸外へ外出していただくようお声掛けしている。天気の良い日などは、お散歩などに出かけたりしている。 (外部評価) 事業所周辺の散歩時には、地域住民と挨拶や会話を交わしたり、買い物に行ったりするなど、日頃から外出できるよう取り組んでいる。近くの喫茶店に出かけくつろいだり、外食したりすることも利用者の楽しみとなっている。家族の協力も得て外出するなど、少しでも外に出やすい環境づくりに努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご本人がお金に対して理解がある場合は、ご本位に任せている。使う楽しみが持てるように常日頃より耳を傾けている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙を書いて「出してほしい」と言われる方もおられたり、必要な際に電話ができるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節に応じた飾り付けや心地よく生活できるように共用部にはソファを設置したり、居心地がよいように工夫している。 (外部評価) フロアの壁には、利用者が作成した似顔絵や貼り絵などが飾ってある。まっすぐ長い廊下は歩行訓練に最適で、利用者はリハビリを兼ねて歩いている。当番表が貼られ、利用者は自分に与えられた役割を生き生きと楽しんで行っている。明るいリビングにはソファや加湿器が置かれ、利用者が居心地よく生活できるよう空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間には、自由に過ごして頂けるように場所を広めにとっている。自由にテレビを見て頂いたりしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご家族より使い慣れたものを居室に持ってきて頂いたり、使い慣れた服や物品（時計・メガネ）など自由に持ってきて頂いている。 (外部評価) 居室はベッド、エアコン、クローゼットが備え付けとなっている。居室には、使い慣れた机やイス、テレビ、ラジオ等が持ち込まれ、その人らしい空間づくりができています。居室への持ち込みの規制はしていないが、シンプルにまとめられ、利用者が居心地よく生活できるよう配慮されている。また、居室の入口には木製の表札が掛けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 障害となるものは取り除き、安全に生活できるように配慮している。ご自分が認識できる場所に関しては自由に使用して頂いている。	